

平成29年度 岡山県地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業  
＜体験の風をおこそう＞推進月間事業＞

チアフルデー～吉備の森感謝でえ～

### 1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

親子で自然体験活動を楽しむことで、親子のふれあいの大切さを感じたり、他の家族との交流を深めたりすることをねらいとする。

子供の健やかな成長に体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高めることを目的とする。

### 2. 主催

岡山県地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会  
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立吉備青少年自然の家

### 3. 事業の概要

#### （1）期日

平成29年10月29日（日） 日帰り

#### （2）参加者

##### ① 募集対象

一般（幼児から大人まで） 500人

##### ② 参加者

433人

#### （3）講師等

遊木皆（ツリーイング指導者）	4人
岡山県シェアリングネイチャー協会	4人（うち3人は大学生）
岡山県青少年教育センター閑谷学校	3人
岡山県立勝山高等学校	1人
興譲館高等学校	1人
森の育て親・建部連絡協議会	3人
日本ボーイスカウト岡山連盟	9人（うち8人は中学生）
国立吉備青少年自然の家 施設ボランティア	14人

#### （4）企画・運営のポイント

- ① 事前申込みが必要な体験活動について、受付時のスタッフの事務軽減を図るためネット上の申込フォームを活用した。
- ② より充実した体験活動を提供することをねらいとして、出展ブースの活動場所を各学習室に割り振るなど拡充した。
- ③ 東京2020パラリンピックに向けて、パラスポーツの体験を企画した。
- ④ 昨年度同様、ステージ発表は地域で活躍している団体に出演を依頼した。
- ⑤ 昼食バイキングが混み合うことから、開始時間を前回より30分早く開始した。

- ⑥ 最後の大会抽選会に、より多くの参加者に来場してもらうために、ウォーキング及び森のスタジアム、出展ブース以外の活動を大会抽選会の30分前に終え、参加を促した。

#### 4. 活動の内容等

##### (1) 日程

10月29日(日)	
9:15	受付
9:30	開会(施設内放送による)
	<b>【屋内活動】</b> 子ども体験遊びリンピック カプラ・ぼっくりウーリー 木のキーホルダー・紙ブーメラン・傘袋ロケット 障害者スポーツ(ブラインドサッカー)
	<b>【屋外活動】</b> ツリーイング ※荒天のため屋内でロープクライミングとして実施 吉備の森自然探検隊 ※荒天のため屋内で実施 おもしろ乗り物遊び 森のスタジアム ウォーキング カッター活動
	<b>【出展ブース】</b> 「勾玉づくり、木工キュービック」(岡山県青少年教育センター閑谷学校) 「空気の流れを考えよう」(興譲館高等学校) 「人工カプセルを作ろう」(岡山県立勝山高等学校) 「鳥の巣箱を作ろう」(森の育て親・建部連絡協議会) 「スーパーボールロケット」(日本ボーイスカウト岡山連盟)
14:30	ステージ発表・大会抽選会・閉会

※11:00~13:30 昼食バイキング

##### (2) 活動の状況



【受付】



【子ども体験遊びリンピック】



【ぼっくりウーリー】



【傘袋ロケット】



【ブラインドサッカー】



【ロープクライミング】



【吉備の森自然探検隊】



【勾玉作り】



【空気の流れを考えよう】



【人エカプセル】



【鳥の巣箱作り】



【スーパボールロケット】



【ステージ発表】



【施設ボランティア】



【大抽選会】

## 5. 成果・課題

### (1) 成果

- ① 事前申込が必要な体験活動について、ネット上の申込フォームを活用し、これまでの先着方式ではなく抽選方式で参加者を決定した。延べ約250世帯、延べ約750人の応募があり公平性を保つ意味でも大変意義があった。
- ② これまで狭いスペースで出展ブースを行っていたが、より活動しやすいように活動スペースを拡充して実施したところ、どのブースも有意義な活動を参加者に提供することができた。
- ③ パラスポーツ「ブラインドサッカー」の体験を通して、障害者スポーツを理解してもらうことができた。参加者にとっても指導者にとっても有意義な機会になった。今後も2020年東京パラリンピックに向けて計画的に招聘し、周知を図っていく。
- ④ ステージ発表では、当所を利用する地元の団体に協力をいただき、日頃の活動を広く発信する機会とすることができた。
- ⑤ 大抽選会では、地元の企業や団体からの寄附を活用することで体験活動の促進に役立つ景品を用意したので、多くの参加者が集まり、会を盛り上げることができた。
- ⑥ 台風22号の影響で前日15時の判断で実施することとし、予定した活動を中止にするような場面もあったが、多くの方に参加していただき、有意義な事業を実施することができた。

### (2) 今後の課題

- ① 事前予約が必要な体験活動の募集を申込フォーム及び電話申込を使って行ったが、事務処理をよりスムーズかつ公正に行うためにも更に工夫する必要がある。
- ② より多くの参加者に来場していただき、体験の風をおこそう運動を具現化する事業とするために、体験活動の充実及び出展ブース等の拡充を図る必要がある。

担当：主任企画指導専門職 大下 展弘